

佐同教だより

佐賀県人権・同和教育研究協議会

住所 佐賀市大和町大字川上 佐賀県教育センター 中研修室棟内

TEL 0952(62)6434 FAX 0952(62)6435

今、そしてこれからの人権教育・啓発、人権のまちづくりを鹿島・嬉野・太良の地から
確かな学びをもとに、人と人とのつながり合い、人権が確立された豊かな社会をつくろう！

10月18日(金)に、鹿島・嬉野・太良の5会場で「今、そしてこれからの人権教育・啓発、人権のまちづくりを鹿島・嬉野・太良から確かな学びをもとに、人と人とのつながり合い、人権が確立された豊かな社会をつくろう！」を大会テーマに、第49回佐賀県人権・同和教育研究大会分科会を開催しました。

県内各地から、社会教育・学校教育関係者をはじめ861名の参加者が5つの分科会に分かれて、レポート報告をもとに、日頃の実践を交流しました。

○嬉野市がめざす

「ひとにやさしいまちづくり」

○佐賀嬉野バリアフリーツアー

センターの活動を中心に

陣内 清さん(嬉野市市民福祉部)

小原 健史さん(佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター)

○白石町における人権・同和教育

啓発活動の取組と課題

○社会学連携による

人権フェスティバルの取組を中心に

山口 裕信さん

竹下 忠和さん

(白石町生涯学習課)

○出会いとつながり

同じ方向を向くために

菖蒲 善之さん

(小城市人権・同和対策室)

【意見・感想等】

○嬉野市のBFTC(バリアフリーツアーセンター)の旅のサポートセンターの「感動」「幸福感」を実現する取組のさらなる発展を期待します。

○嬉野市の取組について、市役所職員の方のハンドデオ初め、様々な取組により、BF(バリアフリー)・UD(ユニバーサルデザイン)などの理念が市民の皆さんにも浸透しているようだと感じ、参考になりました。

○白石町あげての社会学連携の人権フェスティバルの取組は、大変具体的な取組の様子がわかり、今後の県内各地の実践に参考になったと思います。

○小城市の菖蒲さんの報告が大変良かった。人とのつながりを大変大事にされてきたことを話され、そのとおりだと思いました。感謝いたします。

○各市町が人権教育の啓発活動について、いろいろ、熱心に取り組まれているのが分かりました。(攻めの行政を感じた) こういう研修の機会は、改めて人権に対する自分の考え方など見つめ直すことになると思います。

○学校教育にたずさわって、人権・同和教育について勉強をしていましたが、いろいろな立場の方の話を聞き、社会全体の努力や動きを知り、あらためて勉強になりました。



第49回佐賀県人権・同和教育研究大会

分科会 特集

第1分科会【人権啓発】

嬉野市社会文化会館(リバティ)文化ホール

第2分科会【環境づくり】
太良町自然休養村管理センター



○「先生、黒板を見て書くのは、

ちよつと難しいです。」
くきつい思いを伝える力を育むために

永石 梨沙 さん(武雄市立橋小学校)

○特別支援学校における幼児児童生徒支援の現状

一人ひとりの教育的ニーズに
応える取組について

為永 直 さん(佐賀県立三言学校)

○「先生、迎えに来てもらっていいですか？」

『子ども支援マップ』を活用した関係機関と
連携した児童生徒支援・家庭支援について

立部 雅恵 さん(伊万里市立東陵中学校)

前田 祐子 さん(伊万里市社会福祉協議会)

中島 裕美子 さん

(佐賀県スクールソーシャルワーカー)

【意見・感想等】

○私は武雄市の橋町在住です。橋小学校の先生の報告があると知って、第2分科会を選びました。他の2本の報告をも含めて本当に素晴らしかったです。共通して感じたことは、長期的に子どもの成長を考える視点があつたことです。1本めの橋小の永石先生の報告では「自分から助けを求められる力」を育てることを大切にされていることに共感しました。今年、県内では高校生や中学生の自殺がありました。それを防ぐ重要な力になるだろうと思います。3本めの東陵中の立部先生の報告では「支援マップ」のすばらしさは勿論ですが、三者の連携は人と人が知り合うことの大切さを感じました。特に質問への回答の言葉「早く対応しないと、中学校の3年間は何も支援できないまま、あつという間に過ぎ去ってしまう」が、最も印象に残りました。2本めの為永先生の報告では「合理的配慮があれば自立した生活は可能」という言葉に共感します。『人の力を借りる』ことも生きる力として大切だと強く思います。

○3つの実践発表は、それぞれ大変よかつたと思います。2つめの特別支援学校の実践発表は、特別支援教育のあり方を改めて再認識させられるとともに視覚聴覚障がい者の方への具体的な支援の在り方など、大変分かりやすかつたです。3つめは各関係機関の連携を推進していくうえで参考にりました。

○教育に関わる身として、改めて受容することの大切さ、個々のニーズに応じた支援の重要性を感じた。学校だけでは解決できないような問題も外部機関との連携で、乗り越えられるのではないかと感じました。今日学んだことを今後活かしていこうと思ひました。

第3分科会【人間関係づくり】
嬉野市中央体育館 (U-spo)



○個と集団が育つ、
豊かな人間関係づくりをめざして

『生徒指導の3機能』を生かした
場の設定を通して

久富 和範 さん(多久市立東原庫舎東部校)

○「先生、おい、がんばりよつ」

級外の立場でできる人権・同和教育の提案
岩崎 由美 さん(上峰町立上峰小学校)

○「わたしがいっしょにいこうか」

一人ひとりの特性を理解し、
共生できる学級づくりをめざして

上田 美綿 さん

力武 希美 さん

(唐津市立玉島小学校)

【意見・感想等】

○子ども一人ひとり気づきや考えを大切にしたい取組が行われていました。教師が1〜10まで話すのではなく、子どもたち自身が答えを見つけ出すことのできる力を身につける事ができる授業を発達段階に応じて行っていくことが重要だと思いました。「主体的・対話的で深い学び」を中心とした取組ばかりでした。今後、私も実践していければと思います。

○今回の実践発表は改めて自分の日々の教育活動を考える良いきっかけになった。生徒指導の三機能は、学校教育のすべての場面で活用すべきだと思えました。授業でいかに生徒へタイミング良く、承認をするか、そして、いかに周りとの関わりをもたせられるかどうか、それを日々考えて、指導をしています。しかし、生徒の性格なども配慮しながら指導する難しさも感じています。また、何気ない言葉かけで、生徒の様子も変わってくるので、教師自身の「言葉力」を磨いていきたいと感じました。

○3本とも、とても参考になる実践報告でよかったです。義務教育学校9年間かけての個と集団が育つ豊かな人間関係づくりは素晴らしい取組だと感じました。積み重ねの成果を感じました。2本めの上峰小の級外の立場でできる人権・同和教育はすぐにも子どもたちに生かせる内容で、私自身子どもへの接し方に対し、改めて考えさせられる内容でよかったです。また「チーム上峰」というスタンスのもと、皆で全校児童を見守る姿勢も大切だと感じました。3本めの玉島小の報告も全員で(特性のあるなしにかかわらず)取り組む姿勢も大切だと思うし、個人の気持ちを大切にしているスタンスも感じ取られうまくバランスが取れているなと感じました。

第4分科会【学習活動づくり】
鹿島市生涯学習センター(エイブル)



○毎日の授業の中で子どもをつなげる

互いに思いやりの心を通わせ、

温もりのある学校をめざして、

堤 夕子さん(佐賀市立春日小学校)

○ハンセン病学習の取組の実践

「学び」から「発信」へ、

平田 智恵子さん(小城市立小城中学校)

○全校で取り組む人権・同和教育

中野 恵子さん(嬉野市立吉田中学校)

【意見・感想等】

○第4分科会では、人権について発表者のそれぞれの出会いがベースとなり、それを子どもたちへ人権問題への関心を高めるための取組、職員研修へとつながり、心を耕す日々の実践へとつながっていることに感じました。

○本校での人権・同和教育への取組を振り返りながら報告を聞きました。年間計画に位置づけ、計

画的に継続的に工夫をしながら実践されていて、内容も非常に勉強になりました。グループワークでも、校種の異なる先生方と討議することができました。アイスブレイキングも行ってくださったおかげで、近くの先生とお話したり、情報交換をしたりすることができ、良かったです。

○ハンセン病学習の取組の報告について、大変素晴らしい取組だと思いました。先日の国会答弁のなかでも、ハンセン病患者の方に対する国の責任について触れていることから分かるように、決して風化させてはいけない問題だと考えます。国の過去の過ちとして正面から見つめ、正しい知識を身につける必要が国民にはありますし、その手伝い、促しをするのが我々教職員の務めであると、あらためて感じました。

○3年生の社会科公民の授業で、ハンセン病学習を行ったばかりであり、大変興味深く聞かせて頂いた。「ボディーブローのように効いてくる」というのは、私も実感していたので、分かりやすい例えだと感じた。シナリオまで頂き、ありがとうございました。参考にしたいです。

○3本の発表、大変刺激を受けました。日々の授業や、年間の行事をこなすことで精一杯の状態で、人権教育をちゃんと考える事ができていない自分はずかしく思いました。今日の発表を参考に、一度、自分の実践を見直し、カリキュラムマネジメントについてゆっくり考えてみたいと思います。

○学校全体や学年で人権学習に取り組まれ、1年間または小・中を通してどのような生徒・態度を育てたいか明確にしていることが分かりました。扱う題材や導入の仕方など細かい点にも気を配り、生徒の学びができるだけスムーズに誤解を生まないように深める工夫が素晴らしいです。

第5分科会【人権のまちづくり】
嬉野市社会文化会館(リバティ)アリーナ



○竹あかりコンサートの軌跡

石竹 秀子 さん
塩手 宏征 さん

(伊万里市立啓成中学校PTA)

○UNITED みんな一つになろう

文化発表会での人権劇発表を通して
田平 優子 さん

(佐賀県立致遠館中学校)

○地域の中で共に生きる

様々な出会いの中で学んだこと
船津 静哉 さん

(特定非営利法人らいふステージ)

【意見・感想等】

○つながりの大切さをあらためて感じる事ができました。学校、保護者、地域とつながっていくことが子どもたちのすこやかな成長にいい影響を与えることができるものと思います。いい実践報告を聞くことができました。

人権保育研究集会

10月20日(日) 相知交流文化センター



○第5分科会3本の取組、それぞれに味わいがあつてとても良かったと思います。行事等に参加していく体験を通して、子どもたちが成長している様子が伝わりました。一つの行事を成功させるためには、途中様々な困難に出会いますが、そのたびに悩みを聞いてくれる人・サポートしてくれている人との関わりや出会いによって、心の枝葉も広がっていくものだと再認識しました。その中で仲間や周りの人への人権意識も確実に高まっていくと思います。そのように子どもたちが育った先に、人権の花が咲き素敵な街がつけられていくのだと感じました。ラグビーではありませんが「One for all, All for one」
○それぞれのフィールドにおいて、熱意を持って取り組み話を聞き、多くの刺激を受けました。一歩踏み出し、行動し、共有することで仲間が増えると思えます。日本はさらに多様な人々が住む社会になっていきますが、個を受け入れる社会になることを願います。

10月20日(日) 相知交流文化センターで、人権保育研究集会を開催しました。当日は天気にも恵まれ、総勢122名の参加を得ることができました。

【実践報告】

交流から学ぶ やさしい心

仲間を大切にし、

人の痛みが分かる子を育てるために

辻みのりさん

丸尾 由依さん

(唐津市若竹保育所)

【記念講演】

子どもの自尊と自律を育てる保育環境

河西 千津美さん

(福岡県川崎町立同和保育所)

【意見・感想等】

○同和保育所から異動すると、人権や差別について考える機会が少なくなっていたので、改めて考え直すことができました。大川、若竹、若葉の3園交流、とても興味があります。自分の園で取り入れられることは何かを考えます。

○若竹保育所の交流を通しての活動がとても印象的でした。地域の方、他園の子どもたちや保育者とのかわりの中で、たくさんの人に学ぶことが多いのだと感じました。少人数保育の難しさも感じているので(私自身)、言葉のかけ方、子どもの発する言葉、行動などをよく観察して、日々の保育に生かしていきたいと思いました。

また、河西先生の話で、園での様々な取組はとも勉強になりました。プランニングボードは、以前小学生と関わる仕事をしていた時に活用していたことを思い出しました。子どもが自分で考えて行動することができるようになり、とても良かったです。保育所でも取り入れてみようかと改めて思いました。